



—見えない不安を減らすために—

いわき放射能市民測定室 たらちね(福島県いわき市)

市民の力で 「測る」

東京電力による原発事故のあと、市民が運営する放射能測定室が各地に誕生しました。なかでも、その活動が大きく注目されてきたのが、本格的な設備を備え、数多くの専門家も協力する認定NPO法人「いわき放射能市民測定室 たらちね」(福島県いわき市)です。現在の活動と、市民が行動していくことの意義をうかがいます。

「たらちねクリニック」では診療時間内に随時、甲状腺検診を受け付けている



子どもたちを守るには きちんと数値にすること

「私たち自身が被災者として、ここで生活していくうえで必要だと思うことをやってきました」と話すのは、認定NPO法人「いわき放射能市民測定室 たらちね」(以下、たらちね)事務局長の鈴木薫さんです。

原発事故のあと、「子どもたちを守るために、自分たちで何かしなくちゃ」といういわき市のお母さんたちがつながり、地域住民による運営委員会(現在の理事会)が支える形で、たらちねは設立されました。

たらちねの活動は、自分たちの手で食品や土壌を測定することから始まりました。持ち込みによる食品などの放射能測定(ガンマ線)は1点500円で、県外から宅配でも受け付けています。さらに現在では、からだ全体を対象とするホールボディカウンター測定や、甲状腺検診なども実施。また、食品や海水のベータ線(ストロンチウムなど)の測定ができる希少な設備も備えています。「放射能は、見えない、匂わない、感じない環境汚染。測定しないと可視化できません。漠然とした不安を抱えるのではなく、きちんと数値にすることで、どう子どもたちを守るのかを考え、話し合えるのです」と鈴木さん。

ひと月100件ほどの測定を行っています。掃除機のごみ、庭の土、家庭菜園の野菜のほか、山菜やタケノコなどの依頼も多く、高い数値で測定される食品もあります。

たらちねでは「それを食べるかどうかを決めるのは、私たちではなくご本人」だと考えています。「食べる自由もあれば、食べない自由もある。海外での基準や生協の自主基準などの参考情報は提供しますが、判断するのは本人です」(鈴木さん)。

被ばくの不安を話せるクリニック 「心のケア」にも取り組む

2017年には「たらちねクリニック」(内科・小児科)も開設。甲状腺検診などを行う「たらちね子どもドック」という活動を全国からの寄付を受けて無料で実施しているほか、一般の内科・小児科の診療も行っています。

「被ばくの不安は地域の病院でも相談しにくいもの。お医者さんにイヤな顔をされて言えなくなってしまうお母さんは多いんです。最初は内科の診療で来てても、『じつは……』と放射能への心配を話す人もいます」と鈴木さん。

おだやかに話しやすいような雰囲気の院長・藤田操さんは、一人ひとりの話をじっくり聞くことを心がけて診察をしています。

「尿のセシウム測定で高い数値が出た場合には、日常生活について聞きながら原因を考えます。おじいちゃんやおばあちゃんが採ってきた山菜を食べていたケースもありました。原因を改善すれば数値は下がります」

開設から約1年、藤田さんは診察を続けるなかで、子どものメンタル面について悩んでいる親が多いことが気にかかるようになったと言います。原発事故後に大きく環境が変わったことで「子どもは黙ってはいても心に傷を受けていることもあるのです」(藤田さん)。

今後、たらちねでは、心身をリラックスさせるプログラムを通じて「心のケア」にも力をいれていく予定です。こうして「ここでくらししていくために何が必要か」を常に考え、こたえる形で、たらちねの活動は広がってきました。

「2011年に原発事故が起きたとき、私たちは放射能について何も知りませんでした。『国がやってくれないから』ではなく、自分や子どもの身を守るためにも、市民自らが測り、行動していくことは必要だと感じています」(鈴木さん)



山や庭先で採取したものを測定してほしい、というニーズも多い

メンタル面のケアを行うマッサージセラピー用の部屋



「たらちねクリニック」院長
藤田 操さん

栃木県大田原市出身。金沢医科大学卒業。東京の病院に勤務していたが、東日本大震災後に福島県平田村の病院へ。その後、保養施設「沖縄・球美の里」がある沖縄県久米島での病院勤務を経て、2017年6月に「たらちねクリニック」院長就任(内科・小児科)。



「いわき放射能市民測定室たらちね」事務局長
鈴木 薫さん

福島県いわき市小名浜出身。震災後、いわき市在住のお母さんたちと「いわきアクション! ママの会」を立ち上げ、いわき市長への申し入れや「さよなら原発 放射能汚染のない平和な未来を求めろパレード!」などを行う。2011年11月に「いわき放射能市民測定室 たらちね」事務局長就任。

放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告

〈2018年度の検査数(カッコ内は検出件数)〉 2018年6月27日現在 不検出率:98.9%

青果	177	牛乳・乳製品	14	飲料水・飲料	30
しいたけ	16 (11)	肉類・卵	12	その他(加工)食品	647 (1)
きのこ類 (しいたけ除く)	24	魚介類	75	総計	1087 (12)
米	0	乳幼児用食品	92		

〈検査結果:2018年6月27日現在〉 ※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。

青果	2018年度は放射能の検出はありません。	乳幼児用食品	2017年度、検出下限値1Bq/kgで検査を行い、冷凍さつまいもスティック(1.3Bq/kg)から自主基準内で検出されました。産直野菜チップス(さつまいも・にんじん)(1.2Bq/kg)から自主基準内で検出されました。
しいたけ	生しいたけ(5.3~22Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。	その他食品 (お料理セット)	菌茸類については定期的に検査を行っており、しいたけ(4.3Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌茸類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ、まいたけ、きくらげ)からの検出はありません。
他のきのこ類	2018年度は放射能の検出はありません。	その他食品 (大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものがありますが、放射能は検出されていません。
米	2017年産米の検査は27産地69検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.1,4.8Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。	その他食品	2017年度、サプリメントのブルーベリー&ルテイン(8.2Bq/kg)から自主基準内で検出されました。
牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。卵は2018年度の検査をまだ行っていません。		
魚介類	2018年度は放射能の検出はありません。		

放射能自主検査のようす(水産物)



測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分だけを取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

パルシステムの自主基準(独自ガイドライン)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について**自主基準(独自ガイドライン)**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、自主基準(独自ガイドライン)は継続的に見直しを行います。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準(単位Bq/kg)	国の規格基準
水、飲料茶、牛乳、乳幼児用食品	水、飲料茶 10 乳幼児用食品、牛乳 50
飲料、乳製品、米	一般食品 100
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	
しいたけ	

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。
※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界(ヨウ素131、セシウム134,137それぞれ) 2016年4月1日から新基準に変更(単位Bq/kg)	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

●フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水水産物

- 青果は、北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
- 水産物は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。
- 検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・常温の各加工品は年1回、冷凍食品は1年半に1回計測しています。

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページに掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡・新潟ときめき生協
 パルシステム 0120-868-014 月～金曜日:9時～20時/土曜日:9時～17時
 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨 甲府センター ☎ 0120-28-5891 高崎センター ☎ 0120-60-5118
 西桂センター ☎ 0120-32-1061 渋川センター ☎ 0120-36-3315
 一宮センター ☎ 0120-21-9898 東毛センター ☎ 0120-63-3735
 ※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。

表紙でご紹介

認定NPO法人

「いわき放射能市民測定室 たらちね」

放射能測定のご案内

「いわき放射能市民測定室 たらちね」と、併設の「たらちねクリニック」では、食品や土壌の放射能測定や甲状腺検診を行っています。詳細についてはホームページをご覧ください。

■食品・土壌の放射能測定

食品・土壌・水などの放射能測定を受け付けています。ストロンチウムの測定も可能。測定室に測定したいものを持ち込むほか、遠方の場合は電話にて予約の上、郵送でも受け付けられます。測定結果が出るまでの日数は予約状況により変動します。費用は個人一般1点500円～。



測定のために持ち込まれた土

■人体の放射能測定

全身の放射能を「ホールボディカウンター」で測定します。測定を受けることができるのは、年齢2歳以上であり、かつ身長80cm以上および体重15kg以上の人に限られます。2歳以上18歳まで、および妊娠中の方は無料(そのほかの人は、費用がかかります)。測定室の窓口で直接申し込むほか、電話、ホームページの申込書で予約申し込みができます。



全身の放射能を測定する「ホールボディカウンター」

■甲状腺の検診

「たらちねクリニック」(内科・小児科)では随時、甲状腺検診を受け付けています。診療時間内の希望の時間で検診可能です。診療カレンダーは、ホームページをご覧ください。



クリニック内は、子どもがリラックスしやすい環境に

【連絡先・申し込み先】

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
 〒971-8162 福島県いわき市小名浜花畑町11-3 カネマンビル3F

休業日:毎週土曜日・日曜日・祝祭日 開所時間:10時~16時 <https://tarachineiwaki.org/>
 TEL 0246-92-2526 FAX 0246-38-8322